

2025 年 10 月 26 日午前 10 時 30 分

聖霊降臨節第 21 主日 主日礼拝

司会 伊藤愛子

奏楽 木戸恵美子

讃美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、
お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあいさつ)

前 奏

招きのことば 第 1 コリント 1:22-25

讃美歌 223(1-3)「造られたものは」 一 同
交読詩編 19:1-7(P.24/20)

祈 り 司会者

《関東教区お祈りカレンダー》

筑波学園教会 取手伝道所 シャローム伝道所
(主の祈り)

< 幼児洗礼式・転入会式 >

讃美歌 223(4-6)「祝福生み出す」 一 同

聖 書 旧約:創世記 2:4b-9, 15-25 (P.2)

新約:マルコ 10:2-12 (P.81)

メッセージ『一体となる他者』

祈 り 川上 盾 牧師

讃美歌 104「愛する二人に」 一 同

献 金 一 同

(献金感謝の祈り)

信仰告白(使徒信条・口語) 一 同

頌 栄 223(7)

祝 祷 川上 盾 牧師

後 奏

報告・紹介

<招きのことば> 第 1 コリント 1:22-25

ユダヤ人はしるしを求め、ギリシア人は知恵を探しますが、わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです。神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いゆからです。

《10 月礼拝当番》 植松みよ 畠中祥世
大野美子 今村玲子
伴 尚子 竹石実佳

《今週の集会・行事》

◎ 本日 13:00 CS 午後礼拝 (スタッフ会議)

◎ 本日 ハレルヤブックセンター 訪問販売

◎ 28-30 日 牧師、同志社福岡ツア－

◎ 11/1(土) 10:00 会堂清掃 D 組
会堂清掃終了後、召天者写真並べ

《次週の主日》

◎主日礼拝 10:30 (召天者記念礼拝)

メッセージ『天にひとりを増しぬ』

聖書:新約:フィリピ 3:18-4:1 (P.365)

讃美歌 228(1-2), 385 228(3-5), 27

交読詩編 84:1-13(P.97/93)

司会:徳島恵子 奏楽:徳江由利

◎ 墓前礼拝 13:15 嶺公園教会墓地
(12:45 墓地清掃)

◎ 11 月定例役員会 11/2(日) 墓前礼拝終了後

《予 告》

◎ 聖研祈祷会 11/5(水) 10:30 & 19:30

◎ 紅雲町集会 11/13(木)10:30

◎ 群馬地区大会 11/24(月)10:00 新島学園中高

《報 告》

◎ 本日の転入会者・幼児受洗者

＊松橋 頌 1986 年 11 月 7 日生。39 歳。

＊松橋咲良 2025 年 3 月 5 日生。0 歳 7 ヶ月。

頌さんは秋田県由利本荘市出身。本荘教会で受洗(幼児, 1987 年)、信仰告白(2003 年)をされました。本荘教会からの転入となります。昨年 10 月 5 日、川上牧師の司式により前橋教会で毎熊和佳奈さんと結婚式を挙げられました。その後 3 月に誕生された長女が咲良ちゃんです。頌さんは現在は前橋駅前で国語塾(中高生対象)を開業されています。前橋教会の新たな仲間(家族)として心から歓迎します。

◎ 召天者記念礼拝 (11/2)

次週主日です。昼食(おにぎりを準備)を挟んで午後は墓前礼拝となります。12:15 教会出発、12:45 より墓地清掃、13:15 より墓前礼拝(納骨式)という流れです。教会から掃除用具・水のタンク・折りたたみイスを手分けして持っていく必要があります。車に搭載可能な方はご協力下さい。なお当日は 11 月定例役員会も行ないます。墓前礼拝終了後、教会に戻ってから行ないますので、役員の方はよろしくお願いします。

◎ 群馬地区大会(11/24)に参加しましょう

テーマ“うたう♪ぐんま地区”、新島学園中高にて開催されます。参加される方は掲示板の用紙にご記名下さい。本日〆切。参加者には教会でお弁当を用意します。11 月に入ったら歌の練習をします。

◎ 受洗・転入会について

今年のクリスマスに受洗・転入会を希望される方は、牧師までお申し出下さい。特に受洗の方は準備が必要です。早めにお知らせ下さい。

《先週の集会》

	礼拝堂	オンライン	献 金
主 日 礼 拝	50	22	32,343

《メッセージ》「天国はどこに？」

イザヤ 33:17-22, マタイ 13:44-50(10 月 19 日)

▼「天国」「神の国」と聞くと、私たちは死後の世界をイメージする。しかし聖書が示す「神の国」とはこちら岸、すなわち現実世界に「やって来るもの」である。「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」(イエスの宣教の第一声)。▼旧約・イザヤ書 33 章は、そんな「あちから訪れる神の国」の託宣である。そこに示されるのは「終わりの日の裁き」であるが、それは恐れや恐怖ではなく、祝祭として語られる。なぜ終わりの裁きが祝祭となるのか？それは傲慢な者が退けられ、神に従う者が正しく裁かれる日だからだ。▼このような終わりの日への期待が、ユダヤ人に苦難の歴史(バビロン捕囚、hka)を耐え忍ぶ信仰の力を与えた。「今は苦しく辛い日々でも、神は必ず世を正しく裁かれる。だから諦めずに、誠実に生きよう」と。▼新約の箇所は、イエスのたとえ話。全財産を用いても手に入れたいものを得ようとする人々の物語だ。探すものは畑の中の宝や高価な真珠であるが、それらは天の国を表すメタファーである。「天の国とは、人が全財産を用いても手に入れたいと願っているものだ」...最初の二つの譬えは少し様相が異なる。漁師が網を引き揚ると、良い魚は器に、悪い魚は投げ捨てる。そして「世の終わりには正しい者と悪い者を選び分け、悪い者は燃える炉の中に投げ込まれる」と。これは「最後の審判」である。神の国が到来する前に、メシアが現れて世を裁かれるというのである。▼この三つ目の話は、私たちの心を生き生きとした喜びと導くものでない。むしろどちらかというと恐怖を与える。聖書の他の箇所にも記されるこれらの終末論は、私たちの心に暗い影を落とす。「間もなく世の終わりが来る。その時に滅びたくなかったら、この信仰を持ちなさい」と脅してきたのが、中世カトリック教会や現代のカルト宗教の手口である。▼果たして天国とは、そのような恐ろしい経験を経なければたどり着けないものなのか。そんなものに私たちは全財産を賭けようと思うだろうか。▼バプテスマのヨハネは、イエスに「来るべき方はあなたですか？」と問うた(マタイ 11 章)。「来るべき方」それは終わりの日に現れ「最後の審判」を行なうメシアのこと...それがヨハネのイメージしていたことだろう。▼イエスは答えられた。「目の見えない人、足の不自由な人、重い皮膚病を患っている人、耳の聞こえない人が癒され、死んだようになっていた者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。」世の終わりの裁きなどという大きなことではなく、あなたの周りで起こっている、「いと小さな人々の救いや喜びを見なさい。そこに天の国はあるのだ」と。▼天国はどこにあるのだろうか？死後のことはわからない。しかしこの世のことならば、天国はイエスと共にすでに来ているのだ。「想像してごらん、すべての人が世界を分かち合い、平和のうちに今日を生きてる、と。」(『イマジニ』ジョン・レノン) そこに天国はある。